

里山の担い手育成事業
農×移住フィールド講座2025

田んぼの1年生

取り組みと成果のまとめ

2026年3月

特定非営利活動法人つむぎ

はじめに

2025年4月から12月の9か月間をかけて、南丹市内2か所の集落にて、里山の担い手育成事業として「田んぼの1年生」を実施しました。この取り組みは、非農家で、新たに農に関わりたい人が、地方農村においてお米作りに携わるようになることで、農地や農村集落の維持、また水源や生物多様性にとって重要な環境となる里山を維持保全する様々な作業を担うことができる人が増えることを目指しています。

今年度で開催3年目となった日吉町中世木（なかせき）地域では継続ご参加の7名と新たに10名が、開催2年目となった園部町半田地域では、継続ご参加の8名と新たに17名がご参加され、南丹市内を含め京都府、兵庫県、大阪府から合計42名が学びと実践を重ねました。

プランターで野菜を育てたことがあるという方や、田植えや稲刈り体験をしたことがあるという方もいれば、まったく農作業は経験がないという方も含め、自分の手で食べるも

のを育てたい、ゆくゆくは田舎で農業に関わりたい、という方は多くいらっしゃいます。また、野菜の育て方の講座や農業体験を提供している場も各地に多々あります。しかし、非農家の人たちが実際に農地を得て、集落の中でその管理に係る様々な作業をしながら田畑を耕すことに関して、具体的に学べる場所はほとんどありません。同時に、営農ではなく、自給的に田畑で作物を育てたいという非農家の方が、農地を取得し、スムーズに地域の中でその管理を実践できるようになるためのサポートはまだ少ないのが現状です。

「田んぼの1年生」では、農に関わる暮らしやナリワイを実践したい人が、しっかりと地域の先人たちが築いてきた農村里山環境を理解し、労力や手間がかかることも、農村の協働の在り方も、そしてそこからもたらされる「豊かさ」も同時に感じ、学ぶことができるよう、様々な地域の方々からのご協力を得て場を作ってきました。この冊子を通して、1年間の学びと成果をまとめます。

自分でお米を作りたい！

将来、小さい田畑で自給したい！

農業したいけど、まずは試したい！

ちゃんと習ったことないけど・・・

初めてでもできるかな？



この事業は「持続可能な里山環境維持のための活動」として、2024年度より独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」を活用しています。

農×移住フィールド講座「田んぼの1年生」のねらいと実施概要

この講座は、農を切り口とした里山の担い手育成を目的としています。非農家出身で小規模な「農」を始めたい方が、お米作りを通して里山農村環境の中で農地を適切に扱い、周辺環境の整備作業や、地域との関係性を築くために必要な知識と技術を身につけられるよう、実技と座学の組み合わせで構成しています。

人口減少や高齢化により、地方農村では農地や周辺環境の維持ができなくなりつつあるところも多く、特に、大規模集約化が難しく、生産性を追求する形の農業には不利な立地である中山間地（里山）では、営農を目的とした農業の担い手が新たに根付くことがより難しい現状があります。

しかし、中山間地の「農」には、農業の多面的機能として挙げられる多くの役割があり、その機能を健全に維持することは、農村地域だけでなく流域の都市部にもつながる利益であり、生物多様性などの環境的な側面からも必須の要素です。

また、中山間地が日本全国に占める耕地面積の割合は4割、農家総数および農業産出額も4割※と、中山間地の小規模農業が支えている農産物の割合は決して少なくありません。

※農林水産省HP「中山間地域等について」より

重要なのは、これら中山間地の小規模農業の営みと豊かな里山環境は、農地や水路、ため池などの農業インフラの管理、獣害対策、草刈りなどの周辺環境整備等を行う農村集落全体の日々の協働によって長年支えられてきたという事です。これらの作業を、少数の営農農家だけで維持することは非常に困難であるということを、しっかりと認識しなくてはなりません。

<実施概要>

開催期間：2025年4月～11月（中世木）／～12月（半田） 定例日10回+自由作業期間2～3回

開催場所：①南丹市日吉町中世木 上谷藤野森 計約1.2反（田5筆）

②南丹市園部町半田 藤原 よう子 さん所有の田 計約1.2反（田2筆）

主催・全体運営：特定非営利活動法人つむぎ

地域受け入れ団体/お米作り指導講師 ①中世木中山間組合：近藤 定市 さん、梶本 泰広 さん
（項目1～14） ②ココペリファーム：藤原よう子 さん

実技及び座学講師

刈払い機講習会： 日吉町森林組合 堀田 暢 さん、近藤 慎太郎 さん、齋藤 明斗 さん（項目4）

座学：農地の取り扱いについて

南丹市農業委員会 事務局：栃下 惣亮 さん（項目15）

農業委員：①中世木地域 湯浅 照夫 さん、湯浅満 さん ②半田地域 村下 好則 さん（項目15）

座学：南丹市の農業の概要：南丹市農林商工部農業推進課 山内 陽介 さん、北井 智也 さん（項目16）

座学：南丹市の移住サポートについて：南丹市地域振興部地域振興課 村下 一 さん（項目17）

地域からのサポート

①中世木地域 福山 明子さん、湯浅 茂 さん、中世木地域の皆様

②半田地域 岡部 重治 さん、井尻 浩史 さん、半田地域の皆様

※（ ）内の項目は、次ページ「講座内容」の実施項目から担当していただいたものを表記

「田んぼの1年生」では、営農の担い手ではなくとも、これら農村集落が手掛けてきた重要な仕事を含め、田畑で農を実践する新たな人々を幅の広い「里山の担い手」と位置づけています。そして、その新たな“担い手”が地域住民と顔の見える関係を築き、関係人口として、また移住という選択の中で地域に着地できるよう、講座を通して学びの場を提供しています。

これらのねらいを踏まえ、以下の4点を本講座の構成要素としています：

- ①お米作りについては、講座開催地で農業を実践されている方に講師になっていただく
- ②上記地元講師に地域受け入れの窓口となっただき、地域住民との交流や地域での暮らしについての学びも提供していただく
- ③農や地域の暮らしに関する公式なルールや機械の使用等については、行政および地域の専門家に講師になっていただく
- ④参加者はお米作り自体の学びと同時に、水路管理、草刈、その他農地及び周辺環境の維持に必要な作業を理解し身につける



＜実施概要 つづき＞

参加費：1人参加3万円、2人1組参加4万5千円
（保険、農機具や道具の利用、収穫したお米等を含む）

参加者数：合計42名

①中世木地域 11組 17名（うち1名は2年目継続、6名は3年目継続）

②半田地域 18組 25名（うち7名は2年目継続、1名は3年目継続）

参加費者内訳

（2地域合計）：

参加形態	1人	16名	2人1組	13組26名
参加者居住地	南丹市	7名	兵庫県	5名
	京都府	22名	大阪府	8名
男女比	女性	21名	男性	21名



＜講座内容＞

年間スケジュール：

日吉町中世木（栽培品種：キヌヒカリ）		
定例日	日にち	内容
田んぼの準備開始：3月後半～4月初旬		
①	4月6日（日）	オリエンテーション、農地訪問/1年生、水路掃除/2年生、苗代準備
②	4月13日（日）	種もみまき、刈払い機講習会
代掻き、5月8～9日：畦土練り		
③	5月11日（日）	畦つけ、草刈り、畑作業
④	5月25日（日）	田植え
水管理、草刈り、畑作業		
⑤	6月7日（土）	草取り+草刈り、畑作業、振りかえり①
水管理、草刈り、畑作業		
※	6月21日（土）～6月29日（日）	草取り+草刈り、畑作業
水管理、草刈り、畑作業		
⑥	7月26日（土）午後～27日（日）昼まで集中講座	草刈り、水管理、畑の収穫 座学：農地法、南丹市の農業、移住サポート 【この期間（7月下旬）出穂・開花予測】
水管理、草刈り、畑作業		
※	8月16日（土）～24日（日）	草刈り、畑の収穫
水抜き		
※	9月6日（土）～15日（月・祝）まで	草刈り、ヒエ取り、畑作業
⑦	9月27日（土）	稲刈り
⑧	10月11日（土）	脱穀・籾摺り・精米、稲木撤去
⑨	11月1日（土）	収穫祭、振りかえり②
⑩	11月15日（土）	終い仕事

園部町半田（栽培品種：旭1号）		
定例日	日にち	内容
種もみ準備開始：塩水選 3月30日（日）、田んぼの準備開始：代掻き①		
①	4月6日（日）	オリエンテーション、農地訪問 用水路/イネ堰掃除
②	4月20日（日）	刈払い機講習会、種もみまき
代掻き②、5月7～8日あたり畦土練り、畦土寄せ		
③	5月11日（日）	畦つけ、草刈り、畑作業
代掻き③		
④	6月1日（日）	田植え
⑤	6月8日（日）	草取り+草刈り、振りかえり①
※	6月21日～29日（日）	草取り+草刈り、畑作業
※	7月12日（土）～20日（日）	草取り+草刈り、畑作業
⑥	7月19日（土）午後～20日（日）昼まで集中講座	草刈り、水管理、畑の収穫 座学：農地法、南丹市の農業、移住サポート
7月下旬：中干し、8月半ば：中干し後の水入れ、水管理		
※	8月16日（土）～24日（日）	草刈り、水路掃除、畑作業 【この期間以降（8月下旬～）出穂・開花予測】
9月中旬以降：水抜き		
⑦	10月5日（日）	草刈り、竹切り、稲木づくり
⑧	10月26日（日）	稲刈り、振りかえり②
⑨	11月9日（日）	脱穀・籾摺り・精米、稲木撤去、藁もやし
⑩	12月7日（日）	終い仕事、収穫祭

※=この期間中に必ず1回は現地に必要作業を実施

実施項目：

1. お米作りに関連する環境整備

- ①農地訪問：集落を歩き、水の引き方、用水路の維持管理、草刈りのルールなどについて学ぶ
- ②用水路掃除：イネ堰の仕組みを学び、水源から田までの用水路の泥かき作業
- ③電柵補修：獣害対策について学び、電柵の張替え、補修作業
- ④刈払い機講習会：エンジン式刈払い機使用基礎、メンテナンス、安全対策についての講習
- ⑤草刈り：畦、のり面および田の周辺の草刈り作業（年間を通して実施）



2.お米作りの実技：

- ⑥ 畦塗り：鍬を使った手作業での畦塗り作業
- ⑦ 苗づくり：種もみまき、苗代づくり、育苗管理
- ⑧ 田植え：手植えで実施
- ⑨ 田の草取り：田せり機、水田くまで、手での除草作業
- ⑩ 水管理・中干し：水の調整の日程や作業内容の共有、
入水／排水口の確認などで水管理作業を把握
- ⑪ 稲刈り・稲木干し：稲木の馬づくり、手刈りと稲木干し
作業の実施
- ⑫ 脱穀：水分計測、足踏み脱穀機及びとうみによる脱穀と
コンバインを使った脱穀の両方を実施
- ⑬ 粳摺り：小型粳摺り機での粳摺り
- ⑭ 田んぼの終い作業：稲わらをまく作業、トラクターによる
荒おこし作業などを体験



項目6



項目8



項目9



項目7



項目7



項目5



項目9



項目11



項目12



項目11



項目14

3.座学：

- ⑮ お米作りの行程と道具のまとめ：田植え前の準備や苗づくり含む年間の作業や必要な道具、費用の概要などについての確認
- ⑯ 農地法について：南丹市農業委員会事務局より、農地取得に関する決まりや手続き等についての説明
- ⑰ 南丹市の農業：南丹市農業推進課より、農業人口や主要作物、補助金や支援制度などについての説明
- ⑱ 南丹市の移住・定住について：南丹市地域振興課より、空き家バンクや支援制度等の説明



項目16~18

＜課題、改善点、成果＞

中世木地域では3年目、半田地域では2年目の開催となった「田んぼの1年生」ですが、昨年度までの課題と、今年度の工夫や改善点、また得られた成果を以下にまとめます。

昨年度の課題

- ・6月半ばから9月末ごろまで熱中症アラートが頻繁に出る中で体調・安全管理が難しい。
- ・日々の水管理に関して、実施時期と実施内容の共有はできるが、平日に実際の作業と一緒に実施することが難しい。
- ・定例日、作業日での講師以外の地域住民との交流や協働作業などによるかかわりがあまりできていない。

今年度の改善点

- ・両地域ともに種もみまきと苗代づくりの行程を定例講座で実施し、苗づくりの部分も無農薬で機械を使わない方法を学んでもらうことができた。
- ・（半田）2年目の参加者には、塩水選や温水消毒など種もみの下準備から、芽だしをする工程も自分たちで実施できるように講習を実施した。
- ・（中世木）1組1畝で畑もできるようにし、定例講座の日以外にも現地に来やすいようにした。
- ・日程的に定例講座に組み込めない作業（畦土寄せ、苗代管理、など）について、事前に日程を周知することで参加できる人を増やすようにした。
- ・（半田）田の水管理に関して、夏の集中講座の際に中干しのための水抜き作業ができるよう調整し、参加者が実践できるようにした。
- ・安全対策として、定例講座以外で作業に来る場合（現地に講師や運営側がいない状況）は、全体LINEにて事前にお知らせをしてもらい、作業開始前後にも報告を入れるというルールを作った。
- ・上記の情報を基に、作業に来る参加者がいる場合は、6月半ば～9月末までの夏の期間中、熱中症警戒アラートが発令されている際および、暑さ指数（WBGT）が厳重警戒および危険レベルになっている場合は、12時～16時までの作業は原則無しにし、開催地での状況をLINEで参加者全員に周知するようにした。
- ・雷注意報に関しても、開催地附近での予報とリアルタイムでのお知らせができるよう、事務局側で体制を整えた。



今年度の成果

- ・（半田）半田地域の農業委員さんの呼びかけで、別地域の農業委員さんが交流会に参加してくれ、担い手育成への取り組みを知ってもらう機会となった。
- ・（半田）夏の集中講座および交流会の会場として、地域の廃校を活用した活性化センターを利用させてもらうことができ、その管理をしている地域団体（摩気高山の郷振興会）にも交流会に参加してもらえた。参加者と地域住民の会おう場として、非常によい時間が持てた。
- ・（中世木）1組1畝での畑もできるようにしたことで、頻繁に手入れに訪れる人が増え、夏の間の田んぼの様子等も観察したり、必要な作業を実施できる体制が自主的に作られた。
- ・定例講座日以外での作業の呼びかけを積極的にしたことで、現地来訪の機会が増え、より実践的な学びを得てもらえた。
- ・新たに2組のご家族が開催地の1つである園部町半田に移住した。2組ともに田んぼを取得し、お米作りを始める準備や地域コミュニティとのやり取りを始めている。
- ・中世木では来年度継続参加を希望する人が17名中13名、半田では25名中7名（加えて、2名は半田へ移住、お米作りを開始予定）となった。

今年度の課題

- ・夏以降、稲刈りや脱穀の時期に天候不良が続き、雨の中での作業を余儀なくされたり、高温により稲の成熟が早まり、稲刈り時期を早める必要がでるなど、天候と日程との調整が難しいことが多くあった。あらかじめ予備日を設定しておくなど、天候と時期によって平日でも作業ができる準備等を呼びかけておく必要がある。
- ・参加人数が多くなったことで、刈払い機を使用する作業などで、経験が少ない人が実践する機会が少なくなり、十分に実践を積んでもらえなかった感があるため、作業の振り分けの改善をしていきたい。

＜参加者アンケート集計＞

質問① 1年生：講座全体を通して、内容はご期待に沿っていましたか。（回答数21）

A.期待以上	14
B.期待通り	6
C.少し違う	1
D.全く違う	0

2年生：1年目と比較して2年目の学びはいかがでしたか。（回答数10）

A. 1年目の学びがより深まり、実践に近づいた	4
B. 1年目の学びが深まったが、実践には遠いと感じる	5
C. 1年目の学びとあまりかわらなかった	1
D. 期待していたことと全く違った	0

上記の回答の理由を教えてください。

＜1年生＞

- ・農業をする上で色々な作業が必要なのがありました。皆さんと一緒に学べられて良かったです。
- ・米づくりの基本作業を一から知ることが出来て良かった。米づくりの難しさが良くわかった。
- ・作業内容が目新しく勉強になった。作業自体も楽しかった。自由作業期間などもあり、都合がつけやすかった。
- ・中世木の自然がすばらしく、つむぎの方々をはじめ、定市さん、梶本さんの教え方もわかりやすく、楽しく学ぶことができました。
- ・1人で黙々と作業する（覚える）と思っていましたが、他のメンバーさんとも交流があり楽しくできました。今年は地域の方との交流はできませんでしたが、今後もできたらと思います。
- ・全作業参加すれば米作りが網羅されていたから。
- ・無農薬、有機農法でも何とか出来そうな自信ができました。
- ・親身になって不安な事を丁寧に教えて下さった。皆様フレンドリーでとても楽しく作業出来ました。
- ・毎回の作業が想像以上にいろいろ経験でき、細かな作業も教えてもらい、米の成長をしっかりと体験できました！

＜2年生＞

- ・すべての工程を知ることではできたが、自分だけで実践はできない。
- ・基本の反復が大事だと思うので良いと思っている。
- ・1年を通じての作業のどの部分の作業か、それに必要な道具はなど、いろいろと自分で考えながら作業できた。
- ・段どりが頭にあり、作業がスムーズにできた。一方でやっていない作業もたくさんあると感じている。
- ・まだまだ本気が出せていない。
- ・一部参加そこなった会があったため。
- ・3年間かわることで、全体の流れがおおむね理解できた。

- ・機械のメンテナンスなどの体験をさせてもらったのが期待以上だった。
- ・知らない事を細かく教えていただき興味が増した。
- ・稲を育てること以外の地域の人とのつながりや、細々とした準備など（それも稲を育てることが…）具体的に教えて頂いて勉強になりました。
- ・田んぼの管理について細かく教えていただけた。
- ・まさかの、別の田んぼも始まることになって、教えてもらったことが即実践できてよく理解できた。
- ・限られた回数の中で、様々な経験ができましたのでAとさせていただきます。
- ・移住までは検討していなかった。
- ・苗作りや畔めぐりから体験できたのは貴重でした。
- ・座学があつての実作業で理解がしやすい。
- ・草刈りは繰り返す事でいい具合に慣れていった。
- ・悪条件での稲刈とはざかけはいい経験になった。
- ・あぜ塗りの実践
- ・米収穫までたどりついた。
- ・思った以上に作業工程が多く、それをすべて網羅していたため。

- ・参加させていただいて3年目になりましたが、忘れていたことも多く、実践にはまだまだ遠いと感じます。
- ・まだまだ1人でお米を作る自信はないため。
- ・ひとつひとつの作業をのんびりマイペースでできたため。



質問②講座全体での学びの項目について自信がついたもの、実践するにはまだ不安なものを3つ選んでください。(1年生のみ)

	自信がついた	不安
農地訪問や水路掃除を通しての農地を扱うルールや地域の仕組みについて	1	10
刈払い機講習会やその後の草刈りの実践での基本的な使い方の習得	11	1
苗づくりのための種まき方法、温熱機や苗代をつかった育苗方法について(中世木)	1	4
手植えによる田植えの方法	13	3
田せり機の実践や、水管理・草取り作業の報告による育成期間中の田の管理について	2	12
1年間のお米づくり作業の流れと必要な道具、費用等について	2	6
稲の手刈りとはざかけについて	8	5
足踏み脱穀機、とうみおよび機械による脱穀作業について	8	4

良かった点やもっと知りたかったこと、特に難しかったことなどは何ですか。

- ・作業をするだけでなく、いろいろ話を聞いて学べる事が多くありました。水の管理が少し難しかったと思います。地域によってルールがあるのが難しいです。
- ・田んぼの水管理については週末農業などでは管理できないと思いました。現在の米づくりについて、機械化されているところを実際体験したい。
- ・収穫の喜びを感じられて、自分が手を入れたお米を味わえたことが良かった。
- ・はじめての事だらけで、ようやく1年おわたったばかりなので、流れが何とかわかった今、全てをもう1回最初からおさらいしたいです。水の管理は定市さんに任せきりだったので、まだわかってないです。
- ・田せり機、手植えの間隔を均等にする事
- ・米づくりの基本や1年の流れなど、基礎的なことを実践を含めて学ぶことができました。今後、実践をするに当たり、田んぼの条件により、機械の有無や種類、水管理の仕方などが異なってくると思いますので、そこは経験を1つずつ積んでいくしかないと思いました。
- ・田植え後の水管理(入れる、とめる)は、来ていないのでよくわからない。ex.何時間たったら水をとめるとか
- ・穂の出るタイミングにあわせた中干しのタイミングや、稲刈りのタイミングは、何度も経験してわかるころなのだろうなと思いました。とうみの種類で扱いが違いそうだったので、他の方でもやってみたかった。

- ・1年間の流れが知れてよかったです。代掻き、トラクターに乗ってみたい
- ・初めてのことばかりでしたので、スムーズに行うことが難しかったです。2年目以降に経験を重ねることで解決できるのではと思いました。地元の方と触れ合うことのできる経験は貴重でした。
- ・水を水路から田んぼに引き入れるところ。
- ・粃の芽出しは、自分でできるか、まだ不安。
- ・限りなく手作業でできる方法を教えてもらえて、とても勉強になった
- ・荒起こしから全工程自主参加でよいので、実践が見学したいです。
- ・後半はコミュニケーションも増えて良かった。
- ・一反チャレンジします。ふしめふしめでご助言、サポートをお願いしたい。
- ・1年目より自分達でやる雰囲気があり、よかった
- ・2年生同士でわいわい楽しく、互いに得意なことで補いながら協力できた点。これから卒業生同士でも協力していきたい。
- ・種もみづくりから種もみまきについて、先に述べたように、この項目をきちんと把握したい。
- ・そのつどアドバイスがもらえた。
- ・難しいところは、先生方にやってもらったので、上達していません。



質問③座学の内容について、わかりやすさはいかがでしたか。（1年生のみ）

	よくわかった	まあまあ	どちらともいえない	わかりにくかった	わからなかった
農地法について 南丹市農業委員会	4	7	3	4	0
南丹市の農業の概要 南丹市農業推進課	4	10	3	1	0
移住サポートについて 南丹市地域振興課	5	10	3	1	0

質問④ ご自身で農地を取得（購入または賃借）してお米作りを始める場合、難しいだろうな、と感じることとは何ですか。またそれに対してどのようなサポートが欲しいですか？

- ・やはりお金の面のサポートが必要だと思います。農業の初期費用が問題だと思いました。
- ・収入、機械の購入など収支。
- ・主になる収入の維持。
- ・機械が必要な作業でどうするか。借りられるならその金額など
- ・トラクター（代かき）、コンバインの購入やメンテナンス、置く場所。倉庫やガレージ等。共有の倉庫や重機のレンタルや購入、代金補助。
- ・まず荒おこし、トラクター購入は経済的に厳しいのでどうのり切るか。
- ・道具（機械）の購入、保管場所など
- ・苗の準備、水管理、機械の取得
- ・農機具（機械）購入費、水の管理、地域のルール。
- ・農地法への対処、農機具の購入、住居の確保など、自分のニーズに沿ったものが見つけられるか不安。
- ・地域の人との水管理のやり取り
- ・機械なしでの代かきについて
- ・機械の使い方、水管理、地域毎のしきたりに対する対応など
- ・機械を使わない不耕起を考えています。田んぼに水がたまらなかった時が心配なので、そんな時アドバイスがいただけたら嬉しいです
- ・全てを自分達で段取りするのが、今まだ理解不足で、難しいだろうと思います。
- ・住居の確保、またその覚悟
- ・道具用意とメンテナンス。水管理。
- ・水管理、電さく管理、耕運機、他機械の管理
- ・マンパワーの確保

- ・広大な土地ではなく、小さくはじめられるような場所があるとうれしい。
- ・できるだけ自然農でしたいと思っていますが、そのような場所をどうみつけたらいいか
- ・自宅からの距離と広さがちょうどいい所はどこか空いていないか。良い所を教えてください。
- ・小規模で始めたいのですが、賃借してくれる農地があるかなとは思っています。また、農小屋も一緒に借りられればと思います。
- ・農地の所有者とのつながりをつくる方法。使えそうな田んぼを探す方法
- ・その土地の持ち主さんとの話し合いが難しそう。その土地の組合の方に無農薬を理解してもらえかなと不安。機械を全く持っていないからとても不安…代かきできない。手でしんどそう…。
- ・田んぼと家の距離
- ・田んぼを管理するために、何度も通うことが難しいです。
- ・今年のように水不足、あるいは台風、あるいは病虫害など思わぬことがあった場合のアドバイスをいただけたらと思います。
- ・苗づくり。温度管理がむずかしそうなので、次回はJAで購入希望。
- ・1人ではまだできないと思います。土づくりや水管理など。そのつど、アドバイスはまだ必要です。
- ・この時期にそろそろこの作業が必要ということをお知らせするようなサポートがほしい。わからないことがあれば、LINEで聞けるような、場があると嬉しい。



＜振り返りとまとめ＞

3年目となる「田んぼの1年生」を無事に終えることができました。夏の水不足や、熱中症アラートがほぼ毎日発令される中、ご参加の方が体調を崩さないか、また無事に稲が育ってくれるか、ハラハラしながらの日々でした。

半田では2年生の田んぼの出穂が過ぎたころから小さな幼虫が発生し、稲の葉が食べられる被害がでましたが「慌てず様子を見る」という講師の判断で、カエルやトンボ、クモなどの田んぼの他の生き物たちとの関わりを見守るという時期もありました。また、中世木では、高温により稲の成熟が想定より早く進み、お米の質を低下させないため、稲刈り日程を前倒しするとの講師の指示で、参加者の皆さんも日程を調整し、作業を進めました。幸いどちらの田んぼも被害や影響は大きくならず、今年も豊かな実りを得ることができました。

1年を通して田んぼやその周辺の環境に関わりながら、人の手ができることは本当にほんの少しのことであり、それでも、常に状況をみながら、また長年の経験を積み上げてきたからこそ、できうことがあるのだという事を実体験をもって感じ、学んでいます。

昨年からの令和の米騒動の中、中山間地の小規模農業の生産性の低さなどを挙げて、今後の米作りは大規模集約化に進めばよいという意見を頻繁に耳にすることがありました。ですが、この取り組みで学ぶことができた、

講師や地域の方々が日々営まれている農のありかたは、農産物の生産に加え、周辺にも日々細やかな手を入れ、健全な中山間地＝里山の環境を維持する営みそのものでした。集落の水田をくまなく潤す水路の管理や、暑い中でも実施される草刈り作業、獣との距離を適切に保つための工夫など、翌年もその次もまた無事に田畑の実りが得られるように、持続する形で農地を維持するための経験と知恵が凝縮されています。経済的な生産性だけではない評価軸を作ること、そして、この営みに加わることができる担い手の育成が急務であると改めて感じています。

今年度、この講座に参加された2組のご家族が新たに南丹市に移住され、昨年移住されたご家族には赤ちゃんが生まれるという嬉しいニュースもありました。また、中世木では、今年度の参加者の方が多数継続を希望され、来年度からは、地域の受け入れ団体が主体となって、継続参加の方との協働で「みんなの田んぼ」を運営していくことになっています。

最後になりましたが、両開催地の講師および地域の皆様、また、南丹市の関連各課および農業委員会の職員と委員の皆様、また、日吉町森林組合の皆様には、専門的な知識を得る機会をご提供いただきました。心より感謝申し上げますとともに、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人つむぎ

代表理事 ドワイヤーはづき



2025

農×移住フィールド連続講座

田んぼの1年生



自分でお米を作りたい！
将来、小さい田畑で自給したい！
農業したいけど、まずは試したい！
ちゃんと習ったことないけど・・・
初めてでもできるかな？



小さい区画の田んぼで自立してお米作りができるようになるための基礎知識やワザ、地域との関わりなどについて、地域の講師から学び、実践しながら習得していく計10回の連続講座です。

年間の作業概要 ※詳細の年間日程はお問合ください。

- 4月 種もみまき、刈払い機講習、田んぼ準備（水路掃除、電柵補修など）
- 5月 畔塗り、田植え、草刈り
- 6月～8月 草取り、草刈り、水の管理、座学
- 9月～10月 稲刈り、稲木干し、脱穀、粳摺り
- 11月～12月 収穫祭、1年のまとめと終い仕事

学びと実践の項目

- できるだけ機械を使わないお米作り
- エンジン式刈払い機での草刈り
- 地域の農業、農作物について
- 農地の取得の公式な決まりについて
- 水路の管理や水の調整について
- 畦や周辺の草刈り、農地の管理など地域のルール

先生は地域の
実践者の
みなさん



お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人つむぎ tsumugi.nantan@gmail.com



当事業は「持続可能な里山環境維持のための活動」として、独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」の助成を活用しています。

開催地と開催期間

開催地①南丹市日吉町中世木地域

最寄り：JR 山陰線日吉駅

開催期間： 4月～11月

初回開催日： 4月6日（日）

開催地②南丹市園部町半田地域

最寄り：JR 山陰線園部駅

開催期間： 4月～12月

初回開催日： 4月6日（日）

①②共通事項

日数：定例日計10回（合宿1回含む）

&自由作業日

開催時間：各回9：30～16：00頃

参加費

1人 30,000円/年

または

2人1組 45,000円/年

（10回の定例日参加費、保険料、必要な道具、他込）

里山豊かな南丹で、
つくる暮らしをはじめましょう



①日吉町中世木地域では、約500㎡程度の田んぼで、減農薬で一緒にお米を育てます。
（講師：中世木中山間組合）

②園部町半田地域では、1区画約50～60㎡に区切った田で、1人/1組が1区画を担当し、無農薬でお米を育てます。
（講師：ココベリファーム）

参加費に含まれるもの

- ・定例日合計10回の実践型講習+自由作業日
- ・必要な農機具の利用※1・保険代
- ・田んぼの状況の定期配信・収穫したお米
- ・定例日以外での施設利用※2
- ・年間村人パスポート※3

※1 作業着、昼食はご持参ください。

※2 駐車、休憩、着替え、トイレ利用可。

※3 定例日以外での援農やのんびり訪問に！

※4 最寄り駅からの送迎はご相談ください。

※5 合宿の宿泊費および食費は別途必要。



この事業は「持続可能な里山環境維持のための活動」として、2024年度より
独立行政法人環境再生保全機構「地球環境基金」を活用しています。

お問合せ：
特定非営利活動法人つむぎ
E-mail: tsumugi.nantan@gmail.com
HP: <https://tsumugi-kyoto.net/>

Tsumugi
つむぎ

